

<互いを知りシナジー発揮を>

間山一典 全国上下水道コンサルタント協会会長



■法案名に謳われた機能強化
私が一技術者として苦労していた頃は、水道事業においては水源地確保や施設整備が急がれていた時代であり、そうした普及整備や拡張事業を乗り切った先に、現在の令和の時代があると思っております。一個人としては、日本の上下水道はよくぞこの人口や需要のピークを乗り切ったと感じています。

その後急速な少子高齢化や社会構造の変化により「拡張の時代」は終わりを告げ、水道事業は事業経営や改築更新などの新たな対応を迫られることとなりました。そのよるな時に、道路・橋梁、そして下水道と幅広く社会インフラを所管する国

■法案名に謳われた機能強化
水道・下水道双方の事業環境は、人口減少による料金・使用料収入の減少、施設の老朽化などを始め共通する課題も多く、また解決策としての官民連携（PPP）や広域化なども共通しています。今回の水道行政移管は単に事務手続上の話ではなく、先月7日に閣議決定された法案名（生活衛生等関係行政の機能強化のための関係法律の整備に関する法律案）に

互いを知りシナジー発揮を

出せるよる前向きに考えてほしいというのが私の想いです。

■新しい時代への期待感
水道行政移管については協会で意見集約しているわけではなく、あくまで一個人としての感想になります。今は、「どうなるだろう」「どうなるだろう」という期待ではなく、「新しいことが生まれる」「新しい時代が始まる」という

明るい期待感を抱いて、水道・下水道双方の事業環境は、人口減少による料金・使用料収入の減少、施設の老朽化などを始め共通する課題も多く、また解決策としての官民連携（PPP）や広域化なども共通しています。今回の水道行政移管は単に事務手続上の話ではなく、先月7日に閣議決定された法案名（生活衛生等関係行政の機能強化のための関係法律の整備に関する法律案）に

新しい時代への期待感
水道行政移管については協会で意見集約しているわけではなく、あくまで一個人としての感想になります。今は、「どうなるだろう」「どうなるだろう」という期待ではなく、「新しいことが生まれる」「新しい時代が始まる」という

先を見過ごすという不安感です。労働力市場が今後ますます厳しさを増す中、恒久的かつ安定的に水インフラ業界へ若手人材を導入してもらうためには、水道・下水道が、魅力的な職業であること、そして将来性を見出せることが不可欠です。

国土交通省へ水道行政が移管されることで、下水道との接点だけでなく、流域治水やハイブリッドダムといったこれまでの事業の壁を越えた新しいコトへの可能性が拓かれていきます。水道・下水道の普及整備はひとまず終わりましたが、それはあくまでも1回戦が終わっただけで、これから2回戦、3回戦へと続いていくこと、ただステーションが変わるだけなんだというところを、若い人に伝えたいですね。

そして会員各社も、誰かが何かをやってくれるのではなく、新しいステーションを自分たちが切り拓いていくという気概を持つこと、そのことが職業としての魅力や将来性、そして人材の吸引力につながると思うのです。水道行政一体化の今後、大いに期待しています。

まずはお互いを知ることから
会員企業の中には水道・下水道の両方を手掛けている会社は数多く存在していますが、同じ会社の中といえども事業の性質や文化の違いから両者の間に壁を感じるものが少なからずあったのではないのでしょうか。人事交流もそうですが、水道・下水道共同のプロジェクトを実施する機会にもなかなか恵まれません。実際にはお互いのことをきちんと理解していないかも知れないですね。

新たな可能性も見出される契機にもなります。社会課題でもあるカーボンの交流でシナジーが生み出せるよる前向きに考えてほしいというのが私の想いです。

新しい時代への期待感
水道行政移管については協会で意見集約しているわけではなく、あくまで一個人としての感想になります。今は、「どうなるだろう」「どうなるだろう」という期待ではなく、「新しいことが生まれる」「新しい時代が始まる」という

この部分は、先を見過ごすという不安感です。労働力市場が今後ますます厳しさを増す中、恒久的かつ安定的に水インフラ業界へ若手人材を導入してもらうためには、水道・下水道が、魅力的な職業であること、そして将来性を見出せることが不可欠です。

国土交通省へ水道行政が移管されることで、下水道との接点だけでなく、流域治水やハイブリッドダムといったこれまでの事業の壁を越えた新しいコトへの可能性が拓かれていきます。水道・下水道の普及整備はひとまず終わりましたが、それはあくまでも1回戦が終わっただけで、これから2回戦、3回戦へと続いていくこと、ただステーションが変わるだけなんだというところを、若い人に伝えたいですね。

そして会員各社も、誰かが何かをやってくれるのではなく、新しいステーションを自分たちが切り拓いていくという気概を持つこと、そのことが職業としての魅力や将来性、そして人材の吸引力につながると思うのです。水道行政一体化の今後、大いに期待しています。